



佳作

株式会社 y+M design office

三宅 正浩

【作品名】

エキノマエ

設計 株式会社 y+M design office

施工 有限会社 坂根住宅

竣工日 2019年12月1日

建物概要

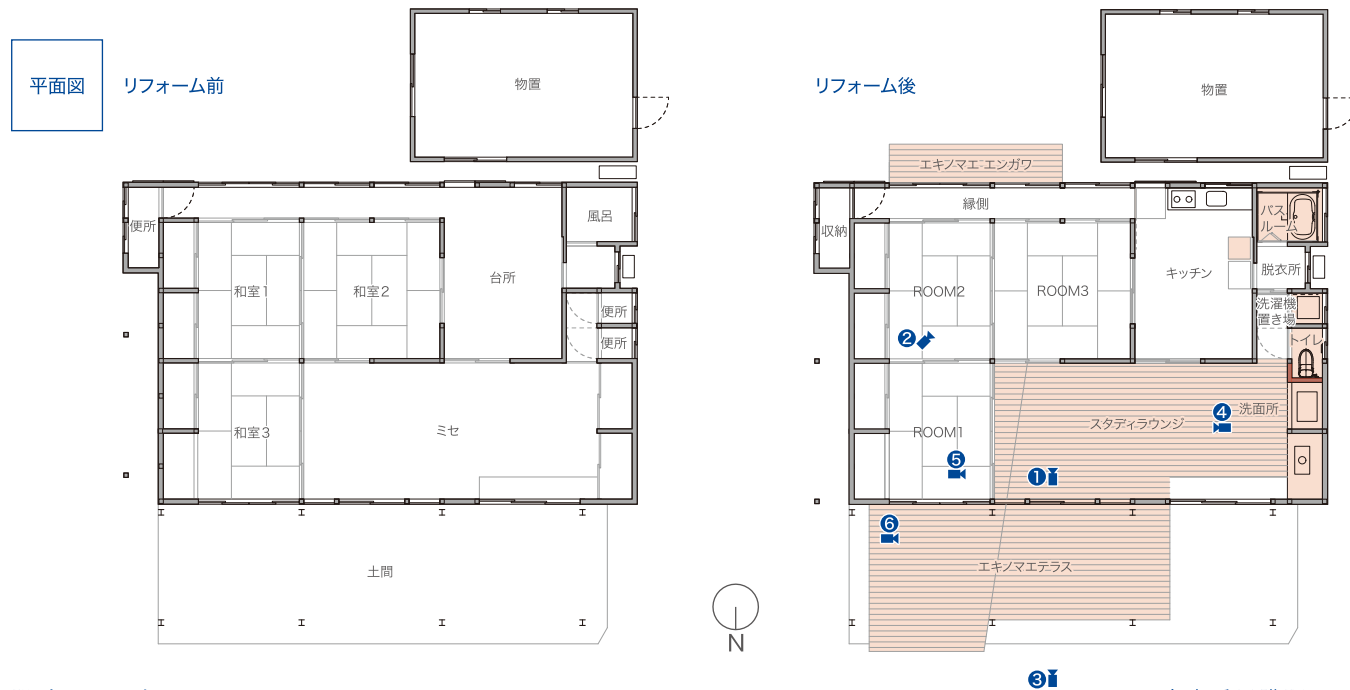
建設地	島根県邑智郡	延床面積	167.00㎡
敷地面積	719.00㎡	構造・規模	木造平屋建

設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	石油ふる給湯器
冷暖房機器	エアコン・薪ストーブ



アクソノ
メトリック図



設計コンセプト

明治時代に建てられた古民家のリノベーションである。学校と自宅の往復でまちとの接点のない学生のために、また、気軽集まる場所の少ない地域の方々のために、さらに、旅館やリゾートホテルしか選択肢のない観光客のために生活空間の一部を開放。「中高校生のスタディラウンジ」「地域の方々のイベントスペース」「ゲストハウス」として活用するため、地元の中高生や地域の方々の協力のもと数回のワークショップを通じて完成した。

ローコストながらも最低限の断熱・気密工事を施し、住環境性能を向上。テラス屋根をポリカーボネートとし、既存の地板を間引くことで、北側でありながら明るく快適な中間領域としている。そのため、昼間は照明に頼ることなく採光を確保できている。夏や中間期は南北の風を取り入れ、土壁の湿度調整によりできるだけエアコンに頼ること

のない住環境としている。冬は薪ストーブによってラウンジ全体を暖めている。

ここをサードプレイスとして過ごした中高生たちは、ほとんどが町外へ進学や就職することになるが、長期休暇には帰ってくることもできる場所となり、いずれは地元に戻ってくるきっかけにもなるかもしれない。

まちと一体感を感じながら生活するクライアントは、コロナ禍でも多くの方々と交流を持ちながら暮らしている。すっかり少なくなってしまったまちとの結節点として、エキノマエの存在が頼もしい。

審査委員講評

使用目的が明確だと設計プランにも迷いが生じない。そんな印象を持った作品です。明治時代の古民家を近隣の人たちとともにリノベーションしていくという物語がこの建物の価値をさらに高めています。地域に開かれたテラスを構成するのは鉄骨の梁、柱、ポリカーボネート製屋根、ウッドデッキ。異なる素材の組み合わせが新鮮。街のランドマークです。



1・2 幼少期から過ごした故郷にUターンしリノベーション。高校生のスタディラウンジと地域の方々のイベントスペース、ゲストハウスを運営するクライアントの要望を叶えた。



3 ポリカーボネートのテラス屋根によって明るく開放的な空間となり、人を招き入れる。

4 地域の足であるバスターミナル駅の道路向かいに位置し、開放的なテラスとラウンジはまちと一体となって暮らすクライアントの生活スタイルを実現している。



5 夏は湿気対策として南北の通風や土壁による湿度調整を施し、冬は積雪の厳しい地域のため、薪ストーブによる暖房を採用。天井には天井扇を採用し、空気の循環を行っている。

6 まちの一部となったエキノマエ。まちの内外を含め多くの方との交流の場となっている。